

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立志賀高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い
1 学力の向上 一人一台端末の活用を通して、魅力ある教材及び指導法の工夫等により、生徒の学ぶ意欲を高め基礎学力の向上を図る。	・ICTを活用して生徒が安心して取り組むことのできる授業を実践し、生徒の学習意欲を高める。	「ICT機器の活用や、授業中の学び合いによって、学習意欲が高まった。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：75%以上～90%未満である。 C：60%以上～75%未満である。 D：60%未満である。	B (81%)	生徒の学習意欲を維持させることができず、やや減少した。ICTの活用や生徒同士の学びあいを生かして授業を活性化させ、活発な授業で生徒に成長を感じさせたい。
①	・学習目標を明確にし、努力の手段や方法をわかりやすくすることで学習意欲喚起を図り、家庭学習時間を増やす。	家庭学習時間調査の集計結果による、1日平均学習時間1時間以上の生徒の割合が A：80%以上である。 B：60%以上～80%未満である。 C：40%以上～60%未満である。 D：40%未満である。	C (48%)	全体的に学習量が減少し、特に3年生の減少幅が大きい。過度な負担は良くないが、適切な目標設定により、向上心をもたせ学習に取り組ませたい。
学校関係者評価委員会の評価				
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策				
2 進路の実現 進学意欲の高揚やキャリア教育の充実とともに、学習支援アプリを活用して個に応じた指導を充実させ、第一進路志望先100%合格を図る。	①・社会人講座や企業見学会等、また学習支援アプリの活用により、生徒の進路意識を高揚させ、積極的に進路実現を目指す態度を育成する。 ②・保護者等や関係機関と連携を深め、個に応じた進路指導の充実を図る。	「社会人講座、各種マナー講座や企業見学会等、また学習支援アプリの活用により、進路実現に向けての意欲が高まった。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。 「学校が提供した個別の進路情報に対して満足している。」と答える保護者等の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	B (81%) B (85%)	特に2年生で意識の低下が見られる。大学進学希望者に対する情報提供が不足していることが考えられる。2月3月に実施予定の社会人講座、工場見学、進学ガイダンス(外部)を活用し、個に必要な情報提供を行い、意欲の向上を図りたい。 一部の生徒において、情報提供した内容が保護者に届いていなかったり、家庭で進路について話し合っていないことが考えられる。担任と連携した生徒への指導と、保護者懇談会等での個別の情報提供ができるよう努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価				
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策				
3 基本的生活習慣の確立 心の教育を実践するとともに、挨拶の励行を中心とした基本的生活習慣の確立や規範意識の高揚を図る。	①・いじめアンケートを年3回以上実施するとともに、生徒全員に面談の回数を増やす。 ②・保護者等と連携を図り、生徒自らも家庭でのスマートフォン等の使用のルールづくりに取り組む。	「学校はいじめに対しての取組をしっかりと行っている。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。 「家庭において、スマートフォン等の使用のルールが守られている。」と答える保護者等の割合が A：60%以上である。 B：50%以上～60%未満である C：40%以上～50%未満である。 D：40%未満である。	B (85%) B (57%)	個人面談の継続やいじめに対する学校の毅然とした取り組みの結果、85%とB評価であった。引き続き継続して取り組んでいく。 アンケートの結果を保護者に周知し、共通理解を持って指導したが57%とB評価であった。今後も家庭内ルールの遵守の継続に向けて保護者・生徒会と連携していく。

	③	・毎日登校指導をするとともに、全教員、生徒会、PTAと連携した挨拶運動週間を設定する。 ・授業規律としての挨拶指導をする。	「生徒は語先後礼の挨拶がしっかりとできている。」と答える教職員の割合が A：95%以上である。 B：80%以上～95%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	B (83%)	アンケートの結果 83%とB評価であった。今後も教職員が率先垂範しつつ、生徒会と連携した挨拶運動週間を設け、取り組みを強化する。
	④	・環境美化週間や放送などにより、学校環境衛生活動を積極的に推進する。	「身のまわりの整理整頓を心がけ、校舎内の清掃活動の際に自ら進んで環境美化に取り組むことができた。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	A (92%)	今年は、保健委員で5S活動を推進し、具体的なステップを表示（まずは不要なものを捨てる「整理」等）することができた。部室等の点検表も作成し、12月には顧問を通じて呼びかけを図った。今後は5S活動を維持できるよう、環境美化週間の際には教室・廊下全体の点検もを行い、呼びかけていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		災害ボランティアに参加してもらい感謝している。他県の災害時にも協力できるようなボランティア精神を養ってほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策		引き続きボランティア活動を推奨し、卒業後も積極的にボランティア活動に参加できるよう指導していきたい。			
4 地域との連携 能登半島地震で被災した地域との連携や情報発信に努め、地域から愛され信頼される学校づくりを総合的な探究の時間を通して推進する。	①	・ホームページの充実や志賀高だより等の配付物を定期的に発信し、情報発信の強化を図る。	「ホームページや志賀高だよりによる情報発信が積極的に実施され、学校の取組がよく分かり、本校の教育活動が理解できた。」と答える保護者等の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	A (91%)	アンケートの結果、「とてもよく分かる」「よく分かる」の合計が91%であり、高評価を得ることができた。日ごろから学校行事を詳細に掲載し、継続してきた結果である。今後も取り組んでいく。
	②	・関係機関等と連携した教育活動を充実させる。	「災害ボランティアに参加することで防災意識が高まった」という生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	D (60%)	そもそも災害ボランティアに参加する生徒が少ない。日頃の学習活動を通してボランティア意識を高めると共に、最初の一歩としてHRや総合的な探究の時間を活用して全員が災害ボランティアを経験できるようにしていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		保護者が参加しやすい日程や方策を考えてほしい。インスタグラムの投稿を継続してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策		行事等は早めに保護者連絡し、行事への参加を促すよう取り組んでいく。			
5 教職員多忙改善 時間管理を意識し、業務分担と協力関係を確立させるとともにICTの活用により、業務の効率化を図る。		・教職員の働き方を更に見直し、担当業務に対してタイムマネジメントを徹底し、時間外勤務の縮減を図る。	時間外勤務月80時間以上の教員の割合が年間で、 A：5%未満である。 B：5%以上10%未満である。 C：10%以上15%未満である。 D：15%以上である。	C (13.0%)	中間評価より割合は、変わらなかつたが、専門的スタッフの導入により全職員で改善が見受けられる。今後は、部活動指導者の導入を検討し、多忙化改善を図りたい。
		多忙化改善は順調に進んでいる。部活動は、授業と同じ今日のねらいなど設定し時間で行動する。			
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策		最終的な目標を設定し、部活動顧問の負担を軽減するため、外部指導者を検討する。			